

山亭夏日

高

駢

緑樹陰濃りよくじゆかげこまやかして夏日長かじつながし

樓台影ろうたいかげも倒さかしまにして池塘入ちとうにいる

水晶簾動すいしょうれんうごて微風起びふうおこる

一架いつかの薔薇しょうび満院まんいん香かは

【作者】高駢(八二二?~八八七年)晚唐の詩人。字は千里。幽州(現・河北省)の人。武術に優れた軍事指導者。黄中の賊を討つて功を挙げた。後、部下に殺された。

【語釈】*山亭 山にある別荘。 *夏日:夏の日。 *池塘:池

【通釈】緑に生い茂る木々は地面に濃い影を落としており、夏の日は長い。建物の影が池の水にさかさまに映って見える。水晶でできたすだれが動いてかすかな風がおこり棚っぱいのバラの香が、建物いつたいに香っている日 夏の日

【参考】高駢という人物は唐末の武家生まれのサラブレッド武将で、南詔の侵入を度々防いで軍功を上げます。で、この軍功で静海軍節度使に任命されます。しかし、黄巢の乱が勃発したため、その後は西川節度使を皮切りに各地を転戦します。この頃は朝廷の期待通りの働きを見せて、あと一歩の所まで黄巢を追い詰めますが、功績を独り占めしようとして却って黄巢の反撃に遭います。この打撃が後を引いたモノか、以後淮南節度使として揚州に引き籠もり、朝廷からの再三の出兵要請にも従わず、最後には部下に謀反を起こされて殺されています。